

令和 7 年 3 月 3 1 日

世田谷区教育委員会様

世田谷区立桜丘中学校
校長 山本 武

令和 6 年度の改善方策に基づく改善結果について

標記の件、下記のとおりご報告いたします。

◆令和 6 年度の重点目標◆

安心・安全で安定した学校

- ・学習指導要領の趣旨に基づき、キー・コンピテンシー育成を重視した学校
 - ・生徒に実質的な活動の場を与え、主体的に判断し、挑戦できる学校
 - ・生徒が互いに思いやり、自他の生命及び人権を尊重する学校
 - ・地域の特色を生かした創造的な教育で教育課題に果敢に対応する学校
- (1) 確かな学力を育む教育の推進
- (2) 豊かな人間性を育む教育の推進

(1) 確かな学力を育む教育の推進

◎令和 5 年度末に掲げた、令和 6 年度の改善方策

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">①学習指導要領の趣旨に則った意図的・計画的な指導の実施②基礎的な知識・技能の習得を目指した指導の充実…R6 最重点③グローバル人材としての能力を高める指導の充実④SDGs の理解の充実と実践力の向上⑤各種テスト結果を活用した指導の実施⑥学習意欲の向上を図る指導の充実⑦探究的な学習の実践と思考力・判断力・表現力の伸長⑧体力向上・健康教育・性教育の充実⑨不登校生徒等に対する「学習の機会」の充実 |
|---|

○改善策に対する回答について

- ①校内で学習評価に関する研修を継続的に実施してきたことで、教員の理解は浸透したと考える。また、保護者会での学習評価の説明及び学校だよりでの通知表の見方を提示したことでその理解も深まったと考える。
- ②全国学力・学習状況調査の結果を学校だよりで結果報告、分析を行ったことで本校の特徴を伝えることができた。現状分析からもまずは基礎的な知識・技能の習得のために授業実践に臨んだ。特に演習等の体験することを多く取り入れる授業が増えた。
- ③ESAT-J が実施されることに伴い、英語教育において音声言語によるコミュニケーションを図る授業を重要視した。ESAT-J の結果は、東京都全体よりも上回ることができた。
※全国学力・学習状況調査の国語・数学の調査結果は、東京都を下回った。
- ④学校行事の取組と連携を図りながら、自然環境学習や自己の生き方に関する学習活動を展開した。各種レポートの作成等についても教科と関連させて行い、横断的な学習とすることができた。

- ⑤各種テストの結果を分析し、生徒に還元したり、今後の学習方略について考えさせる活動を行ったりすることができた。特に、第1学年では認知能力検査に取り組み、面談時にも保護者へも今後の学習方略について具体的な提案ができた。
- ⑥学び舎の取組として非認知能力の教員研修を行い、学力を高めるために必要な非認知能力は「自制心とやり抜く力」であることを理解した。学校で目指す生徒指導として「責任感の醸成」があるが、日常生活や学校行事の中でそのことと関連させ、計画・実行し、やり遂げる意思の涵養を図った。
- ⑦保護者会や朝礼時に「探究的な学習」がこれからは重要視されることを伝達した。また、探究的な学習のフロー（課題設定→情報収集→整理・分析→まとめ）を教え、課題設定によりその学びの幅が異なってくることを伝えた。探究的な学習のフローの理解は浸透した。
- ⑧体力テストの結果の分析を行い、学校だよりで紹介した。一部の学年は体力テスト結果の向上傾向が見られた。また、東京都教育委員会と連携した性教育を実施し、生徒自身にも性の問題や自分の生き方について考えさせることができた。がん教育についても外部講師を招き、授業を実施するとともに学校だよりにもがん教育の意義について伝達することができた。
- ⑨不登校生徒の出現率は、令和5年度と比較して減少傾向が見られた。しかし、全国や東京都の出現率とは大きくかけ離れている。別室登校の在り方を見直し、学習できる環境を整えた。次年度に向けたプログラムの改善や環境整備もできた。

（２）豊かな人間性を育む教育の推進

◎令和5度末に掲げた、令和6年度の改善方策

- ①自律を促す指導の充実
- ②SWPBSの浸透…R6 最重点
- ③いじめ対応の確立
- ④レジリエンスの醸成
- ⑤情報モラル教育の充実
- ⑥教育相談体制の確立 不登校対応の充実
- ⑦安全教育・安全指導に関する指導の充実
- ⑧自己理解・自己啓発を図るための指導の推進
- ⑨進学指導の推進…R6 最重点
- ⑩特別支援教育校内委員会の在り方の検討
- ⑪生徒理解の促進

○改善策に対する回答について

- ①「凡事徹底」を合言葉として、地道な活動を推奨させてきた。園芸部の地道で献身的な活動が区教育委員会から表彰されたり、挨拶をする生徒が増えたりする等、成果を上げている。
- ②本校の生徒指導の根幹としてSWPBS（ポジティブ行動支援）の生徒指導法を取り入れた。「時間を守ること 挨拶をすること 責任を持って行動すること」の3点を意識させた。年度末には振り返りを行い、令和7年度に向けた方針を立てることができた。
- ③いじめ未然防止のための基本方針に基づく、対応を行ってきた。特に、アンケート調査は月1回のペースで行ってきた。大きな案件も発生しており、校内体制の一層の整備とともに、生徒への啓発活動もさらに行っていく必要がある。
- ④一度の失敗で自信を喪失する生徒も少なくないことから、レジリエンスという意言葉を浸透させるよう努めた。学力を伸ばすための非認知能力（自制心・やり抜く力）と関連させ、自

己のキャリアを考える活動を行った。本内容は、不登校対策ともなることから、さらに浸透させることが必要と考える。

- ⑤スマートフォンの取り扱いについて2学期から生徒や保護者にも情報提供・意見交換をしながら進めてきた。情報モラルが十分でないことから、いじめにつながったケースもあり、一層の啓発や家庭との協力体制の構築が必要な状況である。
- ⑥令和5年度と比較し、不登校生徒の出現率は減少した。しかし、東京都や全国の出現率を大きく上回っている現状である。別室登校の在り方を検討し、改善を図り、安心感を与えるために、プログラムを確立した。スクールカウンセラーの勤務日については、1年間で定期的に情報提供した。
- ⑦安全教育等については、計画的な実施ができた。特に、後半の避難訓練は真剣に臨む生徒が多くなり、速やかな避難に繋がっていた。特別の時間としてではなく、何かあったら当たり前のごとく指示を聞き、速やかな避難ができるようになったのは、訓練を継続したことによると考える。
- ⑧⑨本校の総合的な学習の時間の柱は、自己理解に基づくキャリア教育であり、年間を通じて計画的に行うことができた。特に、1年次から上級学校についての学習を取り入れており、それをベースにしながら、3年次の進路選択に繋がっている様子だった。また、3年生には都立高等学校推薦受験対策を行い、受験倍率を上回る合格者を出すことができた。
- ⑩特別支援教育校内委員会については、生徒情報とともに、不登校対策を検討することができた。また、別紙登校生徒に対する学習保障の在り方を検討し、1日の過ごし方のプログラムを確立した。学校生活サポーターの活動の在り方等、さらに改善・検討を重ねていくことが必要である。
- ⑪ポジティブ行動支援、QUの活用、アンケートの利活用等、様々な方法で生徒理解に努めた。定期テスト時等の合理的配慮についても全校体制で臨んだ。スクールカウンセラーのさらなる活用等を検討し、生徒を理解するとともに、安心できる生活環境を提案することができるようにする必要がある。